

活動事例

様々な物を使って 影を作って遊ぶ

環境をデザインする



活動スケジュール：令和6年7月から令和7年2月
テーマ設定理由：日陰の様子や、日当たりの良い保育室に差し込む光の季節による変化等に対して興味をもつ幼児の関心を深めていくため。

- 1、2学期は学級ごとに保育室や遊戯室で影を作って遊べるように場を設定した。
- 2、3学期に外部講師による影絵ショーを鑑賞し、影への興味を深め、仕組みを知り、実践してみる機会を設けた。3学期は4、5歳児が一緒に関わり、影を使って遊べるように、園庭に場を設定した。園庭では、日なたができない時もあるため、暗くなる場や懐中電灯を用意して、影を作れるようにした。OHP、落ち葉、懐中電灯、セロハン、画用紙、赤青眼鏡などを用意し、影を作ったり、影の色の変化などを試せるようにした。

探究活動を実践する



落ち葉でつくった物を窓ガラスに貼ったことで、日差しがあると影ができることに気付いていた。セロハンに光を当てると影に色が付くことに気付く、日差しを当てて影ができるかを試し、影に色が着くことを不思議そうに見ていた。

OHPや懐中電灯を用意したことで、影をつくることに興味をもち、手や体などを使っていろいろな影をつくっていた。影絵ショーを見たあとは、画用紙で切った形の紙で影をつくり、影を大きくしたり、小さくしたりなど大きさを変えて試す、どのような形の影になるか予想して遊ぶなどの姿が見られた。

振り返りを踏まえた気付き

- ・影や光に興味をもつようになり、普段の園生活の中でも「影ができています。」「（コップに）光が当たると机がキラキラしているよ。」と気付いたことを教師や友達に伝えていた。
- ・懐中電灯やOHPなど新たに道具を出すことで、興味をもって関わる姿が見られた。はじめは、用具を使うことを楽しんでしたが、しばらく出しておくとう具に慣れ、試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られるようになった。